



●全国大会 [東京] '23 のお知らせ

日本色彩学会第54回全国大会が、2023年6月24日(土)、25日(日)に、東京造形大学で開催されます。今大会のテーマは「いろくばり」です。

人間の視覚は刺激の差異を検出する仕組みによって光を特定の彩りへと情報化する機能を持ち、その認知過程において「色」は常に複数で存在します。色の配し方によって意味が紡がれます。古来より、色を複数に分類する境界を、思想家、理論家や実務家が様々な論述、表現をもって示してきました。

また、「色」は視覚情報だけでなく、仕草や気配、ものごとのありようを語る文脈におかれる言葉とも認識されます。「いろくばり」というテーマの謎解きを、ぜひ、この度の集いにてご歓談ください。開催形式は、現地開催としますが、オンライン参加も可能です。

詳細はホームページを参照してください。
◆参加申込：
<https://color-science.jp/zenkoku2023/#kaisaiannai3>

◆前納め切：5月24日(水)

◆問合せ zenkoku2023@color-science.jp
03-5913-7079 (学会事務局)

(学会メールニュース No.407 から引用)

新編 色彩科学ハンドブック解説講座

第8回『色彩科学ハンドブック』解説講座が開催されます。

◆開催日時：2023年5月13日(土) 13:00～ ※申込締切は一応：5月8日(月)

◆内容：第8章 色の生理

7. 色覚異常、7.2 後天的色覚異常

◆講師：岡嶋克典先生(横浜国立大学：当該原稿著者)

近年では色覚異常という言葉は用いられず、色覚特性という呼ばれ方が多くなっています。色覚特性については、先天的(生まれ持った特性)だけでなく、後天的に発現する事例についても取り上げています。カラーユニバーサルデザインなどにも関連するトピックです。

「新編 色彩科学ハンドブック」は個人単位での入手が難しい書籍なので、受講特典として、当該箇所に関連する色彩科学ハンドブックのページを資料として配布します。

詳細はホームページを参照。

◆参加費：会員・賛助会員・協賛会員・学生 3,000円。非会員 6,000円。

◆申し込み URL：

<https://forms.gle/GXar5DqH2WDmVAc79>
(学会メールニュース No.408 から引用)

●大辞泉ひろいよみ 15ーい

色染め：種々の色に染めること。特に、布を黒・藍、紺など以外の色に染めること。また、染めたもの。

色代納め：江戸時代、米年貢に代えて麦・粟・ヒエ・竹・綿・筵・縄などを収めること。

色高：江戸時代の雑税の一。クワ・コウゾ・ウルシなどの栽培によって、田畑以外の山野・河海などからの収益があるとき、これを高に算定して村高に組み入れたもの。

色出し：磨いて光沢を出すこと。料理でキュウリやナスの皮の色を熱湯やみょうばんなどで、さらに引き立たせること。

色立：連句の付合手法の一。色彩の取り合わせで前句につける方法。

色玉：ザク口の別名。

色違い：形や模様が同じで、色が変わっていること。また、そのもの。色変わり。驚いて顔色が変わること。

色茶屋：近世、遊女を置いていた茶屋。水茶屋に対していう。

色チョーク：赤・青・黄などの色をつけた白墨。

色付く：果実などが熟してきて色がつく。草木の葉が赤や黄に変色する。紅葉する。性に目覚める。色気づく。

*大辞泉：小学館発行国語辞典

(永田泰弘)